

2014年6月15日

ブライアン・ブルエット牧師

クリスチャン経済における七本の矢

OICへようこそ。お越しいただきありがとうございます。クリスチャン経済における七本の矢と題したシリーズのメッセージは今日が最終回です。先週までおられなかった方のために少し振り返りましょう。第一から第六の矢をとおして、私たちが教会に来るだけでなく教会になる必要性を確認しました。

- #1 祈りの必要性を重んじる教会になるべきである
- #2 励ましを受ける教会になるべきである
- #3 不当に裁かれることのない教会になるべきである
- #4 聖書に則ってあらゆるものを管理する教会になるべきである
- #5 霊的に成長する教会になるべきである
- #6 信仰を重んじる教会になるべきである

第一から第六の矢は、クリスチャンとして私たちがどのように生きるべきかを示す教えですが、使徒パウロが言うように、「愛がないなら、うるさいシンバルと同じ」です。

I コリント 13:1

たとい、私が人の異言や、御使いの異言で話しても、愛がないなら、やかましいどらや、うるさいシンバルと同じです。

私が目指すのは、この教会が神の愛を体験できる場所、愛されていると感じられる場所となることです。この教会は聖書の教えに根差したキリスト中心の教会となる必要があります。そうすれば、神の愛や互いへの愛は自然に感じられるようになるでしょう。また、信仰が成長し、人数も増えることでしょう。もう一度言いますが、私たちは教会に来るだけではいけません。私たち自身が教会になる必要があります。キリストのために全員が協力する教会です。では、なぜ矢を用いて話すのでしょうか。

イザヤ書 49:2,3

49:2 主は私の口を鋭い剣のようにし、御手の陰に私を隠し、私をとぎすました矢として、矢筒の中に私を隠した。49:3 そして、私に仰せられた。「あなたはわたしのしもべ、イスラエル。わたしはあなたのうちに、わたしの栄光を現す。」

では、今日の第七の矢を見ていきましょう。

第七の矢：愛あふれる教会になるべきである

今日の聖書箇所は、ヨハネ第一 3:11-16 です。

I ヨハ 3:11-16

3:11 互いに愛し合うべきであるということは、あなたがたが初めから聞いている教えです。3:12 カインのようであってはいけません。彼は悪い者から出た者で、兄弟を殺しました。なぜ兄弟を殺したのでしょうか。自分の行いは悪く、兄弟の行いは正しかったからです。3:13 兄弟たち。世があなたがたを憎んでも、驚いてはいけません。3:14 私たちは、自分が死からいのちに移ったことを知っています。それは、兄弟を愛しているからです。愛さない者は、死のうちにとどまっているのです。3:15 兄弟を憎む者はみな、人殺しです。いうまでもなく、だれでも人を殺す者のうちに、永遠のいのちがとどまっていることはないのです。3:16 キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。

ヨハネの手紙第一は、愛にあふれた書簡です。第一ヨハネの中に、「愛」という単語は日本語の聖書では 30 回登場します。ほとんどの個所は、神の愛と私たちをとおして神が与えてくださる愛についてです。ギリシャ語には、愛を指す単語が多く存在します。**エロス**は性的な情をあらわす愛、**フィレオ**は兄弟愛、**アガペ**は神の愛であり、私たちが周囲の人と分かち合える愛です。また、**ストルゲ**という単語も使われていました。この単語を初めて耳にした人が大半かもしれませんが、これは家族愛をあらわします。父、母、子、といった家族の中に見られる愛は**ストルゲ**です。この種の愛が聖書の中にあらわされている一例として、マリヤとマルタが互いに愛し合い、また兄弟ラザロを愛していたことが挙げられます。これらは愛を細分化した定義です。今日は、もう少し視野を広げて、聖書に見られる三種類の愛をご紹介します。これらを見ていき、それぞれの日常生活に置き換えて考えましょう。

#1 キリストの愛

ローマ 5:8

しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。

キリストの愛は無条件です。主はこの世に来て、私たちのためにその命をささげてくださいました。キリストが誰のために死ぬかを選び好みされなくてよかったと思います。みんなが円になって座り、つま先を円の中心に向けて突き出し、一人の子が誰がセーフで誰がアウトかを決めるという子どもの遊びがあるそうですが、そんなふうでなくて本当によかったです。自分自身を見つめれば、すぐに真実が明らかになります。私たちはみな罪人です。すべての人は罪を犯して神の栄誉を受けることができないと、ローマ 3:23 にあります。この中で、生まれてから一度も嘘をついたことのない人は手を挙げてください。では、人のものを取ったことが一度もない人は手を挙げてください。このような行為が私たちを神から引き離すのです。これらは罪の現れだからです。しかし、キリストが十字架上で成してくださった贖いの御業によって、すべてが変わりました。キリストはこの世に来てくださったとき、私たちへの愛を示してくださいました。神でありながら、人として生きてくださったのです。神の方法は常に私たちのやり方より優れています。私たちに罪があったにもかかわらず、キリストは来てくださいました。

ルカ 19:10

人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。

キリストがこの世に来てくださったのは、私たちが罪の中でさまよっていたからです。また、偽りの父であるサタンが私たちを滅びに向かわせようとしていたからです。私たちのためにキリストが成してくださった最大の御業は、十字架の御業です。

ヨハネ 15:13

人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。

イエスは、私たちの代価を支払い、私たちを解放してくださいました。皆さんにお尋ねします。その代価は誰に対して支払われたのでしょうか。それは神に対してです。なぜでしょう。神は汚れたものを天国にお入れにならないからです。私たちはみな罪人なので、誰かが私たちの罪の代価を神に支払う必要があったのです。

黙示録 21:27

しかし、すべて汚れた者や、憎むべきことと偽りとを行う者は、決して都に入れない。小羊のいのちの書に名が書いてある者だけが、入ることができる。

マルコ 10:45 がこのことを確証付けます。

マルコ 10:45

人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。

イエスが偽りの父であるサタンに代価を支払ったのなら、サタンはおそらくそんなものは受け取っていないと言ったでしょう。神の愛は無条件です。私たちがどんなに神に背いたとしても、神が私たちを愛さなくなることはありません。ですから、まずもっとも重要なことは、キリストの愛抜きに、今の私たちはないということです。

#2 クリスチャンの愛

聖書に見られるふたつめの愛は、クリスチャンの愛です。キリストにある兄弟姉妹に対する愛は、私たちに深く根付いていなければなりません。そうすれば、互いに接する中で、その愛が自然に表われます。

ローマ 12:10

兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、尊敬をもって互いに人を自分よりまさっていると思いなさい。

テサロニケ第一 4 章には、このようにも記されています。

I テサロニケ 4:9

兄弟愛については、何も書き送る必要がありません。あなたがたこそ、互いに愛し合うことを神から教えられた人たちだからです。

イエスは敵をも愛しなさいと言われました。これはなかなか納得しにくいときもありますが、そうすることによって世間にもクリスチャンの愛を表すことになります。

マタイ 5:44

しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。

兄弟姉妹が互いのことを気にかけて愛情を示さない教会など、私は想像できません。イエスは、互いに愛し合うという新しい戒めを与えるとおっしゃいました。これは、私たちクリスチャンの独自性を示すひとつの方法です。

ヨハネ 13: 34,35

13:34 あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。 13:35 もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」

この戒めは、イエスが弟子たちを離れる前に与えられました。イエスは、私たちが他の人々とは一線を画す方法を示してくださいました。それは、私たちが互いに愛し合うことです。私たちが互いに愛し合うなら、それは私たちが救い主に似た者である確かな証拠となります。その愛は、心のこもった深く優しい愛情でなければなりません。このことを示すみことばを挙げましょう。

I ペテロ 1:22

あなたがたは、真理に従うことによって、たましいを清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、互いに心から熱く愛し合いなさい。

清いたましいで互いに愛し合うとは、自分の得を考えずに兄弟姉妹のお世話をするという事です。純粋な愛は、無私の愛です。相手のことを尊重します。キリストはご自身をいけにえとしてささげることによって、私たちへの愛を示してくださいました。さて今日は、もうひとつの愛を皆さんと見ていきたいと思えます。それは、懲らしめる愛です。

#3 懲らしめる愛

ヘブル 12:7

訓練と思って耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が懲らしめることをしない子がいるでしょうか。

懲らしめるとか矯正するというのは、望ましくない体験と捉えがちです。それは、懲らしめる側が、愛情ある方法でそうしないからです。私は中学3年生のときに、タイピングの授業を受けました。担当の先生の教え方からは、まったく愛情が感じられませんでした。タイプライターの前に座っている生徒たちの間を歩き、練習をしている私たちの指をじっと見つめるのです。その手には、練習問題が入った分厚い本を持っていて、生徒が間違えると、その本で後頭部を叩くのです。私は今でも、ASDFとタイプしようとするとう委縮してしまいます

神の懲らしめる愛にも、痛みが伴う場合があります。それは、私たちの自己中心なプライドを砕くためです。そのために、恥ずかしい思いをしなければならないこともあります。多くの場合、神が直接私たちを懲らしめられるのではなく、周囲の人々を用いてそうなさいます。例えば、私たちは何かができたことで天狗になってしまうことがあります。神は私たちを愛しておられるので、その高い鼻をへし折られます。成熟したクリスチャンのひとつのしるしは、褒められたときに栄誉を十字架にお返しすることです。懲らしめにはいろいろなかたちがあります。苦勞して人生の教訓を学ぶこともそうです。私は毎年夏休みになると、祖父の農場で働きました。初日の朝、祖母が朝の5時45分に私と兄を起こしに来ました。しなければならないことがたくさんあるからです。私たちは十代の都会っ子でしたから、休みの日は午前10時より早く起きたりしませんでした。30分ほどして、祖母が「早く起きなさい。シリアルに牛乳をかけるわよ」と言いました。私たちは冗談だと思って、もう一度寝ました。9時半ごろ、祖母が再び私たちを起こしにやってきましたので、私たちはついに起きました。「朝ごはん何？」と聞く私たちに祖母は答えました。「テーブルの上にあるわよ。6時15分から置いてあるわ。用意されたものを食べなければ、他には何も出さないわよ。」どうなったかお分かりでしょう。次の日、私たちは5時半に起きました。朝食を取って仕事を準備万端でした。

神が私を愛してくださり、悪いところを直してご自身のところへ引き寄せてくださることを感謝します。私はそのおかげでよりよい人間になることができました。

結び

改めて、聖書に見られる3つの愛を振り返りましょう。キリストの愛、クリスチャンの愛、そして懲らしめる愛でした。神の愛に気づいたことがありますか。クリスチャンの愛を示していますか。私たちの人生には、立ち止まる時が必要です。それは、神がひとり子を送るほどに私たちを愛してくださったことに気付くときです。そのとき、私たちは自分の罪深さを認め、キリストの愛を受け入れます。こうして私たちは、クリスチャンとして互いに愛し合うようになります。また、私たちの成長のために備えられた神の懲らしめを甘受するようになります。